

## 第 1 回日産財団リカジョ賞

テーマ	震災からの復興と地元産の農作物の風評被害を中学生の女子力で克服する		
所属機関	福島県福島市立渡利中学校	役職 氏名	教諭 菅野 俊幸

研究概要	<p>震災からの復興に対して自分たちにもできるかことはないかという思いで本校科学部は 6 年前に 2 名の女子で研究活動をスタートした。翌年以降、約 10 名の女子生徒が植物栽培や調理など女性らしい視点で活動を進めてきた。放射線の影響に対する心配や風評被害がいまだに続く中、生徒たちは①<b>家庭用植物工場の研究</b>（放射線量の低い室内でホウレンソウを栽培する方法）、②<b>津波で塩害を受けた土壌を除塩する方法</b>（石灰での除塩を考えたが、植物を使ったファイトレメーションの方法へ転向）、③<b>牛乳から生分解性プラスチック（カゼインプラスチック）を形成する方法</b>など復興をテーマに研究を推進してきた。</p> <p>また、身内で腎臓透析治療を受ける部員が、高価な低カリウム野菜を家庭でも作れないかと④<b>機能性野菜の創造</b>を研究テーマに提案をした。調べる中で腎臓病患者が全国で 30 万人を超えることを知り、その人たちの力になりたいという母性愛的な発想から研究を進めているが、研究を進める生徒たちは、運動部との掛け持ちで活動するパワフルな理系女子でもある。</p> <p>活動を通して得られた研究成果等を市民講座や学会などで発表することが、地元の人たちを勇気づけ、県外にも「福島は今」を知ってもらおう機会につながることを実感し、自分たちが頑張らねばという使命感が、先輩たちから 6 年間の伝統として引き継がれている。</p> <p>研究を通して地域の大学や研究機関、農家など復興に携わる方々から直接学んだことで、復興の担い手となることを目標に掲げ、目的意識をもって日々の研究に取り組んでいる。</p>
------	---

